

## 鎌倉幕府の滅亡

鎌倉幕府の基礎がゆらぎ始めると、<sup>ごだいご</sup>後醍醐天皇は幕府を倒そうとします。足利尊氏など有力御家人が天皇方について1333年に鎌倉幕府は滅びました。この天皇は年号を建武とあらためて、建武の新政という新しい政治を始めました。しかし、公家だけを重んじた政治には武士の不満が出て、武家政治の復活を望む声が高まりました。これを受けて足利尊氏が兵を挙げ、京都に別の天皇を立て、京都に室町幕府を開きました。地方の守護は国内の武士をしたがえて国司のかわりに領地を支配するようになりました。これを守護大名といいます。後醍醐天皇は奈良の吉野に逃げだしました。この人の逃げ足の速さは<sup>ぼつくん</sup>抜群だったそうです。こうして京都と吉野の2つの朝廷が対立する南北朝時代が始まり、その後約60年間続きます。この間、武士たちは京都の北朝か吉野の南朝について戦いました。この戦いを南北朝の争乱といいます。

3代将軍足利義満のころ、南朝ろえて南北朝が統一されました。また、彼は中国(明)との貿易を始めました。貿易船は、このころ問題になっていた海賊(倭寇)と区別するための合い札をもっていたので、この貿易を<sup>かんごうぼうえき</sup>勘合貿易と呼びました。日本は明から<sup>どうせん</sup>銅銭や<sup>きいと</sup>生糸を輸入し、明へは銅を輸出しました。このころ、朝鮮半島では李成桂が高麗をたおして朝鮮国を建てました。3代将軍は金閣寺を建てたことも覚えておきましょう。

## 鎌倉・室町時代の人々の暮らし

13世紀後半、農業では、米を作った後に麦などの作物を作る二毛作が始まりました。各地では特産物が作られ、交通の要所には<sup>といまる</sup>問丸や<sup>ばしゃく</sup>馬借という運送業者が栄えて市も増えました。村には自治組織である<sup>そう</sup>惣が作られ<sup>よりあい</sup>寄合で村のきまりが作られ、商工業者は同業組合の<sup>ざ</sup>座を作って公家や寺社(寺や神社)の保護を受けました。大阪の堺は明との貿易で栄え、有力な<sup>まちしゅう</sup>町衆を中心に自治を行われました。また、大きな寺社の門前町もにぎわいました。

## <sup>げこくじょう</sup>下剋上の世

こうして、団結する村や町が生まれて、たびたび土一揆がおこるようになります。最初の土一揆は、その元号(今の元号は平成)をとって、<sup>しょうちよう</sup>正長の土一揆とよばれます。幕府は、くりかえしおこる土一揆の要求におされて、借金の帳消しを命じる徳政令を出すようになりました。京都では、守護大名の山名氏と細川氏の争いに將軍家のあとつぎ争い等が結びついて、1467年に応仁の乱が始まりました。この戦いは11年も続いて京都は焼け野原となり、幕府

の力はおとろえました。

他にも、守護大名を追い出した<sup>やましらの</sup>山城国一揆や、浄土真宗（一向宗）の信者たちが幕府や守護大名との戦いに勝利して100年近く自治を続けた加賀の<sup>かが</sup>一向一揆が有名です。このように下の者が上の者に実力で打ち勝って地位をうばう風潮は下剋上と呼ばれて社会全体に広がっていき、実力で一国の支配者になる戦国大名があらわれるのです。この大名は、領国を支配するための分国法を作り、自分の住む城を建てて、城のまわりに城下町を作りました。

## 結びつけられた世界

では、日本の戦国時代のころに、外国ではどのようなことがおこっていたでしょうか。1492年コロンブスはインドを目指して航海をし、それまで知られていなかったアメリカ大陸を発見します。ポルトガル人のバスコ＝ダ＝ガマはインド航路を発見し、マゼランは世界一周に成功します。このように船で大冒険の旅をした時代を大航海時代といいます。この時代に活躍した国がスペインとポルトガルです。この2つの国は、戦国時代の日本にとっても重要なものを伝えました。スペイン人のフランシスコ＝ザビエルはキリスト教を伝えました。スペインをはじめとするヨーロッパでは宗教改革がおこってカトリック教会とプロテスタントがはげしく争うようになり、信者のへったカトリック教会は、イエズス会を作ってアジアでの布教活動に力を入れたのです。ポルトガル人は<sup>たねが</sup>種子島に流れ着いて鉄砲を伝えました。

## 天下統一をめざして

この新しい武器をうまく使って天下統一を目指したのが織田信長です。彼は<sup>おけはざま</sup>桶狭間の戦いで今川義元をやぶった後に京都へ入り、足利義昭を将軍にして自分は実権を握りました。その後<sup>あしかがよしあき</sup>足利義昭を追放して<sup>ながしの</sup>室町幕府をほろぼしました。<sup>ながしの</sup>長篠の戦いでは、この新しい武器を活用して、甲斐の武田氏をやぶりました。また、座がもっていた商工業の独占権を取り上げて商工業の発展をうながしました。これを<sup>あしき</sup>楽市・楽座といいます。

しかし、天下統一直前に、本能寺で家来の明智光秀に攻撃されて自害しました。

家来の<sup>あしき</sup>豊臣秀吉はすぐに明智光秀をたおし、天下統一をなしとげました。彼は、<sup>たいこうけんち</sup>太閤検地をおこなって田畑の生産量（<sup>こくだか</sup>石高）を記録して税（<sup>ねんぐ</sup>年貢）の基準をつくりました。また、一揆を防ぐために農民から刀ややりを取り上げました。これを<sup>やぶり</sup>刀狩といいます。これによって武士と農民を区別する<sup>へいのうぶんり</sup>兵農分離がすすみ、身分の区別が強まりました。

彼は全国统一をなしとげると、中国（明）の征服を計画して、朝鮮 に協力するよう要求してことわられると、15万人もの兵を朝鮮に出しました。しかし、民衆の抵抗や 李舜臣 のひきいる水軍の反抗で日本軍は敗戦をかさね、秀吉の死とともに兵を引き上げました。

1600年、徳川家康 は、豊臣氏を支援する 石田三成 らを 関ヶ原 の戦いでやぶり、全国の大名をしたがえました。そして、1603 年に朝廷から 征夷大將軍 に任命されて江戸幕府を開きました。1615年には大阪城の豊臣氏を攻め滅ぼし（大阪の陣）、豊臣方の大名から領地をとりあげて、全国の大名を支配する基礎をつくりました。

幕府は、大名を支配しやすいように配置がえし、京都 や大阪・佐渡 金山など重要なところを直轄領ちよっかつりようとしました。また、交通を整備するために、五街道（東海道 ・ 中山道 ・ 甲州街道 ・ 奥州街道 ・ 日光街道）を整え、関所 や宿場も支配し、3代將軍の 徳川家光 のときに幕府のしくみは完成しました。

1万 石以上の領地を与えられた武士を 大名 といひ、家臣を従えて領民を支配しました。そのしくみを 藩 と呼び、幕府と藩が全国の土地と民衆を支配するしくみ全体を、幕藩 体制と呼びます。幕府は、大名の反抗を警戒して、武家諸法度 を定め、1年おきに領地を離れて江戸に滞在する 参勤交代 を義務づけました。また、天皇と公家に対しては、禁中並公家 諸法度を定め、朝廷を監視しました。

徳川家康は、朱印船 による貿易を奨励し、東南アジアには日本人が住む 日本町 ができました。東南アジアではポルトガル・スペイン・オランダなどヨーロッパの船も活動していて、これらの船は日本へもやってきました。ヨーロッパ人との交流が深まると、キリスト 教の信者がふえました。家康は、貿易の利益のために初めはキリスト教を黙認していましたが、1612年に禁教令を出して、絵踏 などで信者を見つけだして厳しく取り締まりました。こうしたなか、信者の多かった長崎県と熊本県で、天草四郎 を中心としてキリスト教禁止と重い年貢に反対する大規模な一揆が起こりました。これが、島原・天草 一揆です。幕府はこれをしずめるのに苦労したので、キリスト教信者がこれ以上増えないように、スペインに続いて ポルトガル 船の来航も禁止して 鎖国 を完成させました。